

キャリア支援ワーキンググループ報告 ～会員のキャリア支援に向けての取り組み～

森川 みき¹⁾ 加藤 泰輔²⁾ 岡崎 史子³⁾
 平口 雪子⁴⁾ 二村 昌樹⁵⁾ 安富 素子⁶⁾
 滝沢 琢己⁷⁾ 本村知華子⁸⁾ 下条 直樹⁹⁾

¹⁾ 森川小児科アレルギー科クリニック

²⁾ 富山大学医学部小児科

³⁾ 山口大学医学部附属病院小児科

⁴⁾ 大阪府済生会中津病院小児科，免疫・アレルギーセンター

⁵⁾ 国立病院機構名古屋医療センター小児科

⁶⁾ 福井大学医学部附属病院小児科

⁷⁾ 群馬大学医学部小児科

⁸⁾ 国立病院機構福岡病院小児科

⁹⁾ 千葉大学予防医学センター・わんぱくクリニック

抄録：

日本小児アレルギー学会では、小児アレルギー学を学び続けたいと考えている会員が、臨床研究や学会活動に積極的に参加できるように、学会としてのキャリア支援を行う事を目的とし、2019年8月に「キャリア支援ワーキンググループ」を設立した。

これまでの主な活動として、第57回学術大会において、2020年1月に行った「キャリア支援 Web アンケート」結果を詳細に検討した発表、およびキャリア支援に関するシンポジウムを企画実施した。さらに学会のホームページにキャリア支援に関するコンテンツを増設し、キャリア支援に関する情報提供を一括して行い、会員の支援ニーズについての窓口を新設する予定である。

今後も、会員からの率直な意見や要望を取り入れ、学会としてのキャリア支援にフィードバックできるような体制の構築を目指し、ワーキンググループとしての役割を果たしていきたい。

キーワード：キャリア支援，ダイバーシティー，ワークライフバランス

略語：WG：working group

(日小ア誌 2021；35：s73-s76)

はじめに

学会が個々の興味や専門性を持って学び続けようとする様々な立場の会員に対して、キャリア支援の概念を考慮して運営を行うことは大変重要である。一般的

な医療者のキャリア支援としては主に、女性のライフイベントに関わるキャリア継続のための支援や、過重労働に対するワークライフバランスの是正などが問題として取り上げられてきた。一方近年では、一般企業や教育分野でもダイバーシティーの考え方が浸透し、様々な地域、年代、働き方に対してのキャリア支援が求められるようになってきている。本項では、学会としてのキャリア支援の取り組みについて、会員に広く周知するため、本WGの設立から現在までの活動内容を報告し、今後の活動についても述べる。

■連絡先 〒983-0812 宮城県仙台市宮城野区小田原弓ノ町
 100-1-2F
 森川小児科アレルギー科クリニック（森川みき）
 e-mail: miki@morikawa-ped.com
 (受付日：2021.7.2)

表1 第57回日本小児アレルギー学会学術大会キャリア支援WGからの発表

一般演題発表:

- O-99 日本小児アレルギー学会「キャリア支援アンケート」調査
 ～集計結果から見えた現状～ キャリア支援WG 加藤泰輔
- O-100 日本小児アレルギー学会「キャリア支援アンケート」調査
 ～自由記載から読み解く課題～ キャリア支援WG 平口雪子

シンポジウム企画:シンポジウム8

- 診療への情熱を未来へ伝えよう ～小児アレルギー医のキャリアを考える～
 座長 キャリア支援WG 森川みき 二村昌樹
- 8-1 アンケート結果から発展したキャリア支援について
 ～学会主導による具体的な支援策について考える～
 キャリア支援WG 岡崎史子
- 8-2 留学経験者から海外も含めたキャリア支援について
 キャリア支援WG 安富素子
- 8-3 自主学習者であり続けるための成人学習とe-learning
 アガベこどもクリニックもりた, 日本外来小児科学会生涯学習委員会 森田潤
- 8-4 キャリア継続の問題点, 解決への取り組み(医師の働き方改革を含めて)
 国立病院機構三重病院アレルギーセンター 藤澤隆夫

キャリア支援ワーキンググループ設立

日本医学会の各分科会, 日本小児科学会の各分科会などすでに他学会でも女性医師支援, 男女共同参画, 若手支援などについての委員会が設置され, 一定の成果を上げている^{1)~3)}. 日本小児アレルギー学会は, 会員数の増加に伴い, 会員の背景(地域, 年齢, 性別, 勤務先等)だけでなく, 学会に参加する目的や個々の目標についても多様性が増してきている. これまで, 当学会では主に若手医師の支援として, 小児アレルギースキルアップコース(PASCO), 臨床研究セミナー(CReSS)をはじめ, 研究助成支援などの事業を行ってきた. 今後さらに多様な立場の会員それぞれが充実した学会活動を行えるように, キャリア継続を支援する取り組みを充実することは, 学会の発展のためにも重要な要素と位置付け, 2019年8月に「キャリア支援ワーキンググループ(以下WG)」を設立した.

本WGは, 小児アレルギー学を学び続けたいと考えている全会員が, 臨床研究や学会活動に積極的に参加し, 小児アレルギー学の発展と社会貢献に寄与できるように学会としての支援体制を構築することを目的としている. 設立当初の具体的な目標として, 1. 小児アレルギー学を担う次世代の医師へのキャリア形成支援, 2. 様々な立場の会員にキャリア形成の機会を設ける事・キャリアを中断した会員の復帰支援, 3. 学会活動におけるダイバーシティ形成の推進, を挙げ活動を開始. WGのメンバーは, 学会理事からの推薦を募り, 性別, 年齢, 所属機関, 所属地域などについての多様性を重視し, 理事会で承認を得た9名で構成している.

キャリア支援アンケート

本WGの最初の取り組みとして, 2020年1月にWebを利用した会員アンケートを実施した. このアンケートは, 会員の勤務実態(ワークライフバランス), キャリア継続のための問題点やキャリア形成に対する意識, 学会に対して期待する事を明らかにし(無記名, 27問: 所用時間約10分程度), 学会として誰にどのような支援を行っていくべきかを調査することを目的とした. アンケートの結果は, 2020年3月に中間報告を学会ホームページ上で掲載し, さらに第57回小児アレルギー学会学術大会の一般演題2題で報告するとともに, キャリア支援に関するシンポジウム企画の中でもアンケート結果をもとにした具体的な支援策について検討した(表1). アンケートの回答数は668人(男/女353/315, 回答率18.8%)と, 回答率は高くないものの男女比はほぼ同数で, 自由記載欄には76件の記載があり, 会員のニーズを収集できたと考える. 尚, アンケート結果の詳細および, 発表内容については, 本学会誌に投稿予定である.

キャリア支援に関するコンテンツ増設

先のアンケート結果を踏まえWG内で検討を重ねた結果, 多様な背景を持つ会員に対するキャリア支援を行うためには, コロナ禍でより加速したWeb利用が必須であると考え, 学会のホームページ内に, キャリア形成に役立つ情報をまとめて確認できるような新しいコンテンツの増設を提案した. 具体的な内容を表

表2 キャリア支援に関するコンテンツの内容

1. キャリア支援 WG 自体の周知（メンバー紹介を含む）
2. キャリア支援 WG の具体的な活動報告（会員アンケート結果、学会発表内容など）
3. 学会主催の講習会・研究助成等のお知らせ（「お知らせのページ」と重複あり）
4. 関連する他学会・研究会情報の掲載（日本アレルギー学会イベントカレンダーへのリンクを転載することで、アレルギー専門医取得単位に関する情報も確認可能）
5. 公的なキャリア支援に関する情報（ワークライフバランス、女性医師支援に関する情報：厚生労働省や日本医師会へのリンク集）
6. キャリア支援についてのお問合せとご意見の受付窓口の設置（予定）



図1 学会ホームページのバナー

2に示す。このコンテンツの維持とリバイスについては、キャリア支援WGがコンテンツの内容を準備し、広報委員会の承認を得て更新を行う予定である（図1）。

今後の活動について

多様な背景を持つ会員がキャリアを継続する上で共通して直面する主な問題として、ライフイベントや留学・転職などに伴う勤務状況の変化とそれに伴う学習の機会や情報収集手段の不足、問題解決のための支援体制の不足などがキャリア支援アンケートから明らかになった。本WGでは問題解決の入り口として、時間や場所の制約を受けないWebを利用したキャリア支援の情報提供と相談窓口の設置を開始するが、学会としての支援体制を構築するためには、会員ニーズに対してできる限り迅速に成果を実感できる取り組みを行っていく必要がある。これまでWG内で検討された具体的な案としては、各地域で開催される小児アレル

ギー診療に関する研修会の情報発信とオンライン配信の促進、指導医や専門医が不足している環境下の会員へのメンター紹介制度の構築、会員間の交流推進のためのメーリングリストの設置、復職支援や転職についての専用相談窓口の設置などを挙げている。しかし実際にこれらの取り組みを実現するためには、例えば地域情報の収集方法（平等性や利益相反に関する配慮）、メンターの選別方法（メンターの役職・資格や専門性の基準）、メーリングリスト管理（不適切投稿チェック基準やアドレス管理）、復職・転職に関する情報収集方法（地域の大学や医師会支援センターとの連携）など解決しなければならない課題も多い。本WGでは、今後これらの課題についてWG外の学会内組織や他団体とも連携し、支援が必要な会員が直面している問題を少しでも軽減できるように努力するとともに、学術大会や学会ホームページでの情報発信も続けて行く予定である。

おわりに

日本小児アレルギー学会では、「代議員並びに役員候補者の選出に関する規程」変更に伴い、2020年度の選挙におけるクォータ制を導入し、学会運営での男女共同参画が推進された。小児アレルギー疾患に関する医療と研究、社会的サポートを行う当学会の活動に賛同し、所属している会員の性別・地域・年齢・職種・働き方は様々である。今後もより多くの会員からの意見を取り入れ、本WGの活動に反映していく事が重要である。是非、忌憚のないご意見をお寄せいただきたい。

利益相反(conflict of interest)に関する開示：著者全員は本論文の研究内容について他者との利害関係を有しません。

文 献

- 1) 野村幸世, 他. 日本医学会分科会における女性医師支援 2015 年第 3 回アンケート調査. 日本外科学会雑誌 2017 ; 118 : 668-672.
- 2) 名越澄子, 他. 日本内科学会及び内科系 13 学会における男女共同参画に関する調査結果報告. 日本内科学会雑誌 2018 ; 107 : 894-899.
- 3) 張田 豊, 他. 日本小児腎臓病学会の男女共同参画の課題と今後の取り組み. 日本小児科学会雑誌 2019 ; 123 : 1048-1054.
- 4) “長時間労働の医師への健康確保措置に関するマニュアル”. 厚生労働省. <https://www.mhlw.go.jp/content/10800000/000708162.pdf> (参照 2021-6-19)
- 5) “女性医師バンク”. 日本医師会. <https://www.jmawdbk.med.or.jp/> (参照 2021-6-19)